

## 平成 28 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

「大塚だからできる！大塚は夢をかなえる！大塚からはばたけ！」～社会的自立、社会貢献のできる生徒を育てます～

生徒の第一希望をかなえる進学にも就職にも強い学校をめざします。

- ・普通科…多様な生徒の幅広い教育ニーズに応え、地域に根ざした学校
- ・体育科…競技力の向上と府民のスポーツの振興、発展の拠点校としての学校

## 2 中期的目標

## 1 確かな学力の向上

(1) 生徒のニーズに応えた学習指導の充実を図る。

- ア TT、少人数展開、習熟度別、ICT活用などによる生徒が満足できる授業を展開する。
- イ 始業前学習や短期集中講座の実施により、基礎学力の定着をめざした学習を継続的にサポートする。

(2) 授業改善に積極的に取り組み、教員の授業力向上を図る。

- ア 校内研究授業週間をベースに、教員相互の自主的な授業観察、授業評価を行う。
- イ 生徒対象の授業評価、保護者の授業参観時の評価を授業力向上に繋げる。

※ 卒業アンケートで「3年間勉学に一生懸命取り組めた。」と答える生徒 (H27: 63.7%)、「大塚で3年間学んで学力面で伸びた。」と答える生徒 (H27: 61.2%) をそれぞれ65%とする。

## 2 志や夢のはぐくみ

(1) 生徒が自分の意志と責任で進路を選択できるようにガイダンス機能(的確な情報提供・進路HR・進路相談)の充実を図る。

※ 進路面で「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)。」と答える生徒 (H27: 82.6%) が85%以上となるよう進路指導の充実を図る。

(2) 大学等の進学情報を収集・提供するとともに、大学見学会やオープンキャンパス等に生徒・保護者が積極的に参加できる機会を設ける。

(3) 3年間見通した継続的、系統的な進路講習を整備し全校的に計画的に実施する。

※ 大学(4年制)進学率 (H27: 55.0%) を60%、センター試験受験者 (H27: 42名) 50名以上をめざす。

(4) 就職内定率100% (H27: 24名) を維持する。

## 3 豊かな心と社会性の育成

(1) 「あたりまえのこと(挨拶・時間厳守・ルールやマナーの遵守)をあたりまえに！」を合言葉に規律規範の確立に努める。

ア 生徒全員が明るく大きな声であいさつのできる学校を維持・発展させる。

※ 遅刻総数(教務遅刻) (H27: 986件) 1,000件以内とする。

イ 教育相談体制を整備・充実し、生徒たちの心のケアに努め、安心安全な学校づくりを推進する。

ウ 生徒状況の把握と保護者との緊密な連携を図るため、保護者との三者面談100%実施をめざす。

エ 保健部、人権委員会、学年が連携したケース会議を効果的に運用する。

オ 学校行事(大塚祭)の充実及び部活動の充実を図る。

※ 普通科生徒の部活動への参加を積極的に推進し、部活動加入率を70%以上とする。

## 4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進(開かれた学校づくり)

(1) 活発な部活動と体育科の専門性を活かし、広く府民の体育・スポーツの振興発展を目標に、地元小学校や中学校を中心としたスポーツ交流やボランティア活動を推進する。また、2020年東京オリンピック出場をめざし、府民に夢と感動を与えられるようなトップアスリートを育成する。

ア 松原市の地元小学校と連携した「ふれあい大塚スポーツ教室」を継続実施する。

イ 地元中学校の運動部との連携と交流を促進する。

(2) 松原市におけるスポーツ関連事業等に積極的に参加し、地域交流・地域貢献を推進する。

(3) 進展する少子化に対応するための魅力ある学校づくりを推進する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 28 年 12 月実施分]	学校協議会からの意見
<p><b>【生徒】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「大塚を選んで良かったと思う。」に対する肯定値が、普通科 54.8% (3年: 58.4、2年: 48.7、1年: 57.6) 体育科 79.9% (3年: 、84.6 2年: 88.3、1年: 66.7)</li> <li>・「学校に行くのが楽しい。」に対する肯定値が、普通科 60.1% (3年: 54.8、2年: 53.3、1年: 72.3)、体育科 78.2% (3年: 71.8、2年: 90.0、1年: 72.7)</li> <li>・「学校生活についての先生の指導に納得できる。」に対する肯定値が、普通科 46.6% (3年: 42.5、2年: 48.9、1年: 48.3)、体育科 72.2% (3年 75.6: 、2年: 80.8、1年: 60.3)</li> </ul> <p>⇒全体的な傾向として肯定率の低下が見受けられるのが気がかりであるが、特に普通科生徒の「学校に行くのが楽しい」、「大塚を選んで良かった」、「先生の指導に納得できる」という設問への肯定率が低く、目的意識や目標を持ちながら学校に通うことの大切さが視える。</p> <p><b>【保護者】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもが大塚を選んで良かったと思っている。」に対する肯定値が普通科 80.1% (3年: 78.4、2年: 79.6、1年: 82.2)、体育科 91.7% (3年: 94.0、2年: 92.5、1年: 88.6)</li> </ul> <p>⇒生徒は校則などが厳しいことについて肯定的ではないが、保護者の立場では生活規律などの面において学校に厳しさを期待するところがあるため、本質的なところで違いが生じることが予測できる。</p>	<p><b>第1回 (H28. 6. 14)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○平成 28 年度学校経営計画及び学校評価について <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校総体出場クラブを5クラブ以上という目標を掲げた。</li> <li>・ふれあい大塚スポーツ教室の種目を増やし活性化を図りたい。</li> </ul> </li> <li>○教育課程の変更について <ul style="list-style-type: none"> <li>・難関大学受験への対応を前提とした改編であり、演習等の科目を増やす。</li> </ul> </li> <li>○進路状況について <ul style="list-style-type: none"> <li>・近年は浪人生が増加傾向にある。</li> <li>・指定校推薦で大学受験をめざす場合、校内で複数競合すれば選考を行う。</li> </ul> </li> <li>○体育科のマスゲームについて <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全に配慮するため、円筒の高さを1段低くする予定である。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第2回 (H28. 11. 15)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育自己診断について <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の回答率が低い状況を改善する方策を検討したい。</li> </ul> </li> <li>○第1回授業アンケート結果について <ul style="list-style-type: none"> <li>・実技教科において、生徒の取組みの数値が高い。</li> <li>・家庭学習については、数値が低い傾向が続いている。</li> <li>・ICTの積極的活用が今後の課題である。</li> </ul> </li> </ul> <p><b>第3回 (H29. 2. 9)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校教育自己診断結果について <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生の肯定値がここ数年の傾向と比較して低いことが窺えるが、生徒意識の変化などが原因として考えられる。</li> <li>・委員から、自己肯定感を問う質問を加えたらよいのではないという意見があった。</li> </ul> </li> <li>○第2回授業アンケート結果について <ul style="list-style-type: none"> <li>・全項目の平均値が1回目の3.12/4点からやや上昇し、3.15であった。</li> <li>・トンプソン検定における極端に数値が低い教員の人数が前回より増えた。</li> </ul> </li> <li>○平成 28 年度学校経営計画評価(案)及び平成 29 年度学校経営計画(案)について <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成 28 年度実績について、空欄の部分は年度末までに記入予定である。</li> <li>・平成 29 年度経営計画(案)においては、「授業力向上に向けた取組み」「新課程導入に伴うカリキュラムの見直し」「読書活動の促進」「普通科生徒の部活動の活性化」等を新規項目として追加した。</li> </ul> </li> </ul>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 確かな学力の向上	授業力向上の取組みと生徒の学習意欲を高める取組みの充実 ア ICT を活用した授業の推進 イ 授業研究の推進 ウ 学習意欲の向上 エ 体育科教育の充実・発展	ア・ICT を活用した研究授業を実施し、さらに魅力ある授業への取組を推進する。 イ・学習指導部の取組みとして、研究授業週間を1・2学期に設定し、全教科で研究授業を実施する。 ・授業アンケートの結果を授業力向上委員会において分析することにより各教員の授業改善を進める。 ・初任1・2年目の教員を対象とした校内研修を充実させる。 ウ・始業前学習の充実を図る。 ・成績不振者を対象にした短期集中講座を実施する。  ・空き教室等を有効活用した自習スペースを確保し、自学自習習慣を確立させる。 ・習熟度別展開授業の拡充により、個々の生徒に適応した学力の向上を図る。  エ・「体育科」の名称変更を検討し、それを契機とする体育科教育の一層の充実・発展を促進する。	ア・授業に ICT を活用する教員の率を50%以上に高める。(H27:39%)  イ・授業相互見学を年間2回実施し、実施率を70%以上に高める。(H27:54) ・学校教育自己診断において、「授業は工夫されていてわかりやすい。」という生徒の回答率が60%以上とする。(H27:普通科44.7%、体育科60.9%) ・初任者等を対象とした校内研修を年間を通じて実施する。(H27:28回) ウ・始業前学習の実施回数を1割増とする。(H27:週2回) ・定期考査前講習(H27:年間5回)、長期休暇中の補習(H27:夏期、冬期)を継続実施する。 ・稼働率(開放日数/登校日数)30%以上とする。 ・学校教育自己診断において「少人数展開や習熟度別授業はわかりやすく取組みやすい。」という生徒の回答を70%以上とする。(H27:普通科53.9%、体育科69.8%)  エ・校内での検討を継続させていく。	ア・ICTを活用している教員の率は前年度より微増(42%)であった。(○)  イ・教員相互の授業見学を行った者は2回で延べ92名(78%)であった。(○)  ・学校教育自己診断において、「授業は工夫されていてわかりやすい。」という生徒の回答率が(H28:普通科43.8%、体育科61.7%)であった。(○) ・初任者等を対象とした校内研修を年間を通して実施した(H28:18回)(○) ウ・始業前学習の実施回数は(H28:平均週2回)であった。(○) ・定期考査前講習(H28:年間5回)、長期休暇中の補習(H28:夏期、冬期)参加者が約15%増加した。(◎) ・自習教室の稼働率を測定することができなかったが、各階の自習スペース等で放課後勉強している生徒数が格段に増加した。(◎) ・学校教育自己診断において「少人数展開や習熟度別授業はわかりやすく取組みやすい。」という生徒の回答が63.0%であった。(H28:普通科55.2%、体育科70.8%)(○) エ・引き続き校内での検討を継続させていく。(△)
2 志や夢のはぐみ	将来の夢の実現に向けた取組みの充実 ア 進学講習の推進 イ 進学支援の充実 ウ キャリア教育の推進	ア・より充実した進路を獲得するための発展講習を実施する。 イ・進路別授業・演習を2年次より実施する。 ・大学見学会を1年生対象に実施する。 ・勉強合宿(「進路サマーセミナー」)を実施する。  ウ・就職内定率の安定化を図る。	ア・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習を実施する。 イ・進路分野別説明会を1、2年次において、大学見学会を1年次において実施する。(H27:8大学) ・勉強合宿参加者を30名以上とする。 ・センター入試受験者50名以上、国公立大合格者5名以上、難関私立大合格者10名以上をめざす。(H27:センター42名、国公立1名、私大4名) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)」と回答した率が85%以上とする。(H27:82.6%) ウ・就職内定率100%を維持する。 ・警察、消防、自衛隊等の公務員試験合格者数3名以上とする。(H27:消防7名)	ア・早朝、放課後講習や夏・冬休み集中講習、センター試験前の直前講習を実施計画どおり実施した。(○) イ・進路分野別説明会を1、2年次において、大学見学会を1年次において実施した。(H28:8大学) ・勉強合宿参加者は31名であり、所期の目的である動機づけに効果が見られた。(◎) ・センター入試受験者53名、国公立大合格者3名、難関私立大合格者は30名であり、目標を達成できた。(◎) ・卒業生アンケートの「第1希望をかなえることができた(ある程度できた)」と回答した率が82.3%であった。(○) ウ・就職内定率100%を維持できた。(13名) ・公務員試験合格者は5名(警察2、消防3)であった。(○)

<p>3 豊かな心と社会性の育成</p>	<p>規律・規範意識の確立と部活動の活性化 ア 基本的生活習慣の徹底 イ 部活動の推進 ウ 教育相談体制の充実 エ 体罰根絶に向けた取組の充実</p>	<p>ア・早朝立ち番指導（挨拶と自転車指導、遅刻指導）を継続徹底する。</p> <p>イ・普通科生徒の部活動入部を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・同窓会及び H28.1 に発足した運動部 OB・OG 組織（「踏翔体育会」）の連携促進により、一層の運動部活動の活性化を図る。</li> </ul> <p>ウ・教育相談室の有効活用を促進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人権学習の内容充実を図り、生徒・教職員の人権意識の高揚を図る。</li> </ul> <p>エ・教職員に対する体罰根絶に向けた校内研修を充実させ、正しい部活動指導の在り方について意識高揚を図る。</p>	<p>ア・遅刻者数 1,000 件以下を維持する。(H27: 986 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率を 95%以上とする。(H27: 普通科 88%、体育科 98.4%)</li> </ul> <p>イ・普通科の部活動入部率を 60%以上とする。(H27: 男子 60.5%、女子 54.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「踏翔体育会」定例総会の参加者数を 10%増とする。(H27: 183 名)</li> </ul> <p>ウ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答を 60%以上とする。(H27: 56.6%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率を 80%以上とする。(H27: 78.7%)</li> <li>・人権学習の生徒アンケートにおいて「関心をもっていますか。」とする肯定回答率を 65%以上とする。(H27: 63.1%)</li> </ul> <p>エ・職員会議等における不祥事根絶に向けた意識啓発を継続する。(H27: 5 回)</p>	<p>ア・遅刻者数 638 件であった。(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断において、「日常のあいさつをきちんとできている。」という回答率が (H28: 普通科 87.6%、体育科 98.3%) であった。(◎)</li> </ul> <p>イ・普通科の生徒の部活動入部率 (H28: 男子 65.6%、女子 45.4%) であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「踏翔会（同窓会）」「踏翔体育会」（運動部 OB・OG 総会）」定例総会の参加者数が 150 名余であった。(○)</li> </ul> <p>ウ・学校教育自己診断において、教育相談に対する肯定的回答が 57.5% であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断において「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。」という回答率が 75.8%であった。(○)</li> <li>・人権学習の生徒アンケートにおいて「関心をもっていますか。」とする肯定回答率が 59.9%であった。(○)</li> </ul> <p>エ・職員会議等における不祥事根絶に向けた意識啓発（年間 7 回）を行った。(○)</p>
<p>4 体育・スポーツの拠点校としての発展と地域交流の促進</p>	<p>競技力の向上とスポーツ拠点校としての取組みの強化 ア 競技力向上のためのスポーツ環境の整備 イ 地域スポーツの普及・振興 ウ 地域交流・地域貢献の推進 エ 学校広報の充実</p>	<p>ア・運動部活動の活性化と推進を図るためのソフト・ハード面の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高校スポーツ界の夢の舞台である全国高校総体への出場をめざし、さらなる競技力の向上を図る。</li> </ul> <p>イ・地元小学生対象の「ふれあい大塚スポーツ教室」の充実発展及び地元中学校運動部との連携と交流を推進する。</p> <p>ウ・地域交流としてスポーツ関連事業や市民文化活動、地域フェスタに積極的に参加して地域交流、地域貢献を進める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・文化部の活性化等、普通科生徒にとって一層魅力ある学校づくりを推進する。</li> </ul> <p>エ・総務部を中心に学校説明会、中学校訪問、学校ホームページの充実などを促進する。</p>	<p>ア・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招へい事業の生徒対象のアンケートにおける満足度を 80%以上とする。(H27:75%)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校総体への出場クラブ数を 5 クラブ以上を目標とする。(H27: 男子 バレー、陸上、ソフトテニス、水泳)</li> </ul> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」の種目増と 100 名以上の参加者を募る。(H27: 3 種目 90 名)</p> <p>ウ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業を促進する。(H27: 吹奏楽 2 回、ダンス: 5 回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率を 60%以上とする。(H27: 普通科 33.3%、体育科 69.1%)</li> <li>・学校教育自己診断において、普通科生が「学校に行くのが楽しい。」という回答率を 70%以上とする。(H27: 63.2%)</li> </ul> <p>エ・学校説明会（年間 4 回実施）の内容を充実させ、参加者の 10%増をめざす。(H27: 計 1,247 名)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問を全教員が分担して実施し、訪問エリアの拡充を図る。</li> <li>・学校ホームページのリニューアル充実とリアルタイムでの更新に努め、アクセス数の 1 割増を図る。(H27: 5,400 回/月)</li> </ul>	<p>ア・スポーツ講演会、スーパーインストラクター招聘事業の生徒対象のアンケートにおける満足度が 78% であった。(○)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全国高校総体への出場クラブ数が 3 クラブ（男子バレー、陸上、ソフトテニス）であった。(○)</li> </ul> <p>イ・「ふれあい大塚スポーツ教室」4 種目とし 121 名参加者があった。(◎)</p> <p>ウ・文化部の保育園や老人福祉施設等への交流事業（ダンス: 3 回）を実施した。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校教育自己診断で、「授業や部活動を通じて、小中学校、地域の方々と交流する機会がある」と回答する率が 52.8%（普通科 36.2%、体育科 69.3%）であった。(○)</li> <li>・学校教育自己診断において、普通科生が「学校に行くのが楽しい。」という回答率が 60.1%であった。(○)</li> </ul> <p>エ・学校説明会（年間 4 回実施）の参加者が延べ 962 名であった。(△)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校訪問を全教員が分担して実施した。(107 校) (○)</li> <li>・学校ホームページのアクセス数の増加（約 5,500 回/月）を図れた。(○)</li> </ul>